長谷川進

自主管理

の締めくくりをつけるとしよう。

自主管理とは、いうまでもなく、まず、何かの形での生産手段の自主管理とは、いうまでもなく、まず、何かの形での生産手段のととである。しかし今では、やはりその点に中心の意義があることに変りないにしても、その内容ははるかに広まり、要するに社会生活のあらゆる面にわたっていわゆる直接民主制を実現すること、少くとも可能なかぎり、その方式を採用することを意味するものと少くとも可能なかぎり、その方式を採用することを意味するものと外してよいであろう。

でいることに因るであろう。
近年この問題がさかんに論じられるようになったのには、種々の近年この問題がさかんに論じられるようになったのには、現代資本主義諸国に人間解放をもたらすはずであった多くの社会主義・共産主義諸国に人間解放をもたらすはずであった多くの社会主義・共産主義諸国に人間解放をもたらすはずであった多くの社会主義・共産主義諸国におけるそれと裏限な実状、しかも両者に共通の事態すらが現われていることに因るであろう。

にしては消滅すべき運命にある。」
にしては消滅すべき運命にある。」
にしては消滅すべき運命にある。」
にしては消滅すべき運命にある。」

またマルクスによると、パリ・コミューンは、「いまは主として、個体的所有を事実たらしめようと望んだ。……もし協同組合生産が欺瞞やわなにとどまるべきでないとすれば、もしそれが資本主産が欺瞞やわなにとどまるべきでないとすれば、もしそれが資本主産が欺瞞やわなにとどまるべきでないとすれば、もしそれが資本主産が欺瞞やわなにとどまるべきでないとすれば、もしそれが資本主産が欺瞞やわなにとどまるべきのとすれば、もしる相談会体の一つの計画にもとづいて全国の生産を調整し、かくしてそれを自己のつの計画にもとづいて全国の生産を調整し、かくしてそれを自己のの計画にもとづいて全国の生産を調整し、かくしてそれを自己のの計画にもとづいて全国の生産を調整し、かくしてそれを自己のの計画にもとづいて全国の生産を調整し、かくしてそれを自己のの計画にもとづいて全国の生産の情報やいる。

制される」ととを要求するものとしている。の共有財産に転化する」とともに、「総労働が協同組合によって規の共有財産に転化する」とともに、「総労働が協同組合によって規

を立て、では次のように説かれている。 と産の労働者自主管理の主張者であるように見えるかも知れない。 しかしマルクスが、「現存社会変革の一つの力」とする協同組合運動は、「私的労働者の個々の努力という狭い範囲にかぎられた」協動は、「私的労働者の個々の努力という狭い範囲にかぎられた」協助は、「私的労働者の個々の努力という狭い範囲にかぎられた」協助は、「私的労働者の個人の努力というない。」とする場合には、「ゴータ」では次のように説かれている。

生産条件を変革するために働くことであって、国家補助による協国民的規模の上に設立しようと欲することは、ただ彼らが今日の「労働者が協同組合生産の条件を社会的規模の上に、そしてまず

同組合の建設とは、何の共通するところもない。」

手段を形式上は所有しないでも、労働力を搾取し疎外するブルジョは、『監督指導の仕事』が新しい社会階層を生みだし、彼らは生産 義、集権主義体系上十分にとりいれられえないのである。「マルクス ゆる社会権力に対する対抗・抑制のこの有効な手段が、その一元主 な権力状況を現出している。マルクスにおいては、自主管理、あら 格」を失うどころか、全社会権力の集中化のゆえに、いっそう深刻 なのである。そこでは「階級差別が消滅し」、「公権力は 政治的性 批判した当のラサール主義すなわち国家社会主義・共産主義の勝利 はおよそ異なるであろう。現実は、結局、マルクスが『ゴータ』で ス主義の名のもとに行われた革命がもたらした結果は、『宣言』と 言』に安んずることはできないであろう。現に、マルクス、マルク ことでなく、それへの道程を問題にする ならば、マルクスの『宣 遠い先の「共産主義」開花の段階のことであろう。そういう将来の 級差別が消滅し、すべての生産が結合された個人の手に集中される とでは事情が一変するというのであろうか。なお『宣言』には「階タリア革命以前のことにかぎられ、「プロレタリア独裁」国家のも 化のもとでも、生産協同組合はその自主管理機能を営むというの 要具を国家すなわち支配階級として組織されたプロレタリア階級の と、公権力は政治的性格を失う」とあるが、これはいつとも知れ あろうか。マルクスが国家補助による協同組合を斥けたのは、プロレ 手に集中する」ことと、どう両立するのであろうか。生産手段国有 の場合、こうした言明は、『共産党宣言』における、「すべての生産 を裏づける文章を拾い集めることができるであろう。だがマルクス 以上のほか、『資本論』からもマルクスの労働者自主管理の思想 2 To

15,1971)。 (イヴォン・ブールデ「カール・マルクスと自主管理」Autogestion, No.ア的機能をいぜん首尾よく果しうることを考慮していない」という

考察されているのである。 の体系全体にもとづき、しかもその実現の方途についてもくわしくの体系全体にもとづき、しかもその実現の方途についてもくわしく

固有の弁証法にもとづく均衡は、折衷ではなく、その理念の実現を それらがいっそう発展する途をひらくことであり、そのための手段 中心的には正義と自由の理念への重視がある。 その逆の 面をいえ 的自立的な諸要素から成るとする社会的多元論。これら諸要素の一 0 的条件の制約はむろん十分に認めながらも、人間個人の意識と行動 方策は当然に個人と集団の自発的活動にもとづくものでなくてはな 団が本来的に具えながら奪われている諸力と諸属性とを取り戻し、 的、観念的等々さまざまの疎外条件からの解放は、何より人間と集 である。かくしてプルードンにとって人間の解放、経済的、政治 発性と集合力といったが、むろん現実はそれらの発現を妨げる社会 目ざす「反権威的均衡」(アンサール)である。いま個人と集団の自 ば、一切の権威に対する徹底的な反抗・否定である。かくしてその 根拠には、人間の行動を内面的に方向づけるもろもろの価値・観念、 相互主義および連合主義。そして人間と集団との自発性を重視する 時的相対的な均衡による社会的統一とその原理をなすものとしての の相対的自立性と集合力の理論。社会は互いに対立し相関する相対 多様性と自発性とを基本とする考え方。集合的存在すなわち集団 さきに述べたプルードンの根本思想のすべて もろもろの客体

くわしく論じている。)とおうでは、経済管理の主体には三つのものが区別されるとがランは江口幹訳『現代のアナキズム』で自主管理についてかなりがランは江口幹訳『現代のアナキズム』で自主管理のである。(ちなみに、ゲランによると、経済管理の主体には三つのものが区別されるとがランによると、経済管理の主体には三つのものが区別されると

総が他の各地でも結成されるよう奨励した。 よりもはるかに「革命的な事実」であった。プルードンは同様の組労働者生産組合が結成された。これはプルードンにとって政治革命二月革命のさい、パリやリョンで、民衆の問から自発的に多数の

宣言」でこう述べている。

遺刊紙「プープル」(一八四八・一一・八ー一五)掲載の「民衆の選挙場」の提案にまったく対立するものであった。プルードンは自己の場」の提案にまったく対立するものであった。プルードンは自己の

「組合を結成した、あるいは結成途上にあるわれわれ生産者は、「組合を結成した、あるいは結成途上にあるわれわれの交換を組織するのに、国家も強制的通貨も必要としない。結局するところ、国家による信用は資本によ る 信用 で あって、労働による信用ではなく、つねに君主制であって、デモクラシーではないからである。」

このにめプルードンは国家の信用制度に代るものとして、労働生産物に基礎をおく無償(無利子)信用の「交換銀行」、のちには「庶民銀行」を唱え、その設立を計画した。この計画は一八四九年一月民銀行」を唱え、その設立を計画した。この計画は一八四九年一月民銀行」を唱え、その設立を計画した。この計画は一八四九年一月民銀行」を唱え、その設立を計画した。この計画は一八四九年一月民銀行」を唱え、その設立を計画した。この計画は一八四九年一月民銀行」を開発を表する。

最初の核となることを欲するものである。」「われわれは鉱山、運河、鉄道等々の国営を欲しない。われわれに結集されたもろもろの組合および結社のこの巨大な連合体の絆に結集されたもろもろの組合および結社のこの巨大な連合体の場で結集されたもろもろの組合および結社のこの巨大な連合体の場ができません。おれわれば鉱山、運河、鉄道等々の国営を欲しない。われわれていた。

を であり、三年後の『一九世紀革命の一般理念』ではいっそう明白でであり、三年後の『一九世紀革命の一般理念』ではいっそう明らかの時代からすでに大産業を念頭においていたことはこれでも明らかある。

でいえば、組合員になるか、いずれかである。第一の場合には、労大規模な分業……人力の高度の集積を必要とする」産業の経営におた規模な分業……人力の高度の集積を必要とする」産業の経営におに部分化されざるをえない労働者が、地主―資本家―企業主の単なる賃金労働者にとどまるか、さもなければ、この労働者が企業を左る賃金労働者にとどまるか、さもなければ、この労働者が企業を左る賃金労働者にとどまるか、さもなければ、この労働者が企業を左る賃金労働者の集合的雇用、機械と労働力の大規模な配置……「多数の労働者の集合的雇用、機械と労働力の大規模な配置……

働させられ、搾取される。……第二の場合にのみ労働者は人間および市民としての威厳を取り戻し、……生産者の一部となるのである。」(陸井・本田訳、二二九)との場合、生産手段その他はむろん「国家や営利会社」のものではない。「操業すべき産業、実現すべき事業は、それに参加するすべての人々の共有かつ不分割の所有でき事業は、それに参加するすべての人々の共有かつ不分割の所有である。」(同上、二三〇)

ところで、プルードンは、経済面におけるこのような労働者の自ところで、プルードンは、経済面におけるこのような労働者の自ところで、プルードンは、経済面におけるこのような労働者の自己など、プルードンの労働者組合は二重の、すなわちサンジカとしての意味と生産協同組合に該当するであろう。ギャルヴィッチによると、プルードンの労働者組合は二重の、すなわちサンジカとしての意味と生産協同組合と訳されているが、意訳る。またさきに述べたように、プルードンは革命闘争において破壊を高いた。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおる傾向がある。この点ブルードンには、一般に直接大きな影響をおいて」、一八六九、、闘争面をきわめて重視したバクーニンと異なるものがあることになる。

う。しかしプルードンにとっても、現存秩序の根本的変革なしに、ときとしてこうした傾向が強く出ていることは否定できないであろえるものとして改良主義、楽観主義という批判を加えられてきた。かくしてプルードンは、いわゆる体制内での自主管理的建設を唱かくしてプルードンは、いわゆる体制内での自主管理的建設を唱

に忠実に時代の現実とともに歩んだ思想者である。といいうまでもない。それをいかにして真実のものたらしめるかの探究に心を砕いたのである。プかにして真実のものたらしめるかの探究に心を砕いたのである。プかにして真実のものたらしめるかの探究に心を砕いたのである。プかにして真実のものたらしめるかの探究に心を砕いたのである。プかにして真実のものたらしめるかの探究に心を砕いたのである。プルードンが、根がにして真実のものたらしめるかの探究に心を砕いたのである。

労働者自主管理の方途、広くいえば「自主管理社会」(バンカル)労働者自主管理の方途、広くいえば「自主管理社会」(バンカル)の途を説きながら、それがきわめて困難なことは十分に知っていた。その困難としては、自主管理企業間の調整その他技術的問題のことにあった。このためプルードンは、労働者に対する百科全書的な教育の必要を説き、これを、労働者が従事する産業においてあらな教育の必要を説き、これを、労働者が従事する産業においてあらな教育の必要を説き、これを、労働者が従事する産業においてある。

において、プルードンにいっそう顧みるべるものが存するであろといった「野生のピューリタン」ともいわば質的転化に求めたわけを労働過程のなかに、すなわち労働のいわば質的転化に求めたわけである。これが自主管理の目ざすところであることはいうまでもない。プルードンにとって人間は本質的に生産者である。むろんプルードンも生産の発展を説いてはいるが、これを基本的条件とはしてードンも生産の発展を説いてはいるが、これを基本的条件とはしていないし、「野生のピューリタン」ともいわれるプルードンの「科学的社会主義」の根底には、物質的豊かさとは別の何か、オーステ学的社会主義」の根底には、物質的豊かさとは別の何か、オーステ学的社会主義」の根底には、物質的豊かさとは別の何か、オーステ学的社会主義」の根底には、物質的豊かさとは別の何か、オーステッテ(簡素、厳しき)の精神があるように思われる。物質的豊かを基学的社会主義」の根底には、物質的豊かるとは別の何か、オーステット(簡素、厳しき)の精神があるように思われる。物質的豊かを基学的社会主義」の根底には、物質的豊かな人間の疎から解析を表するであるである。

う。

誰よりもプルードンによっても示されているのである。は高まってきた。しかしそれとともに解決されない、場合によっては高まってきた。しかしそれとともに解決されない、場合によって貧困の問題は、いぜん解決には遠いとはいえ、その解決の可能性

ではこう述べている。

難点はさらに労働者階級自身、彼らの知的および道徳的傾向のうでするかぎり、個人および集団の創意や自発性や独立の活動をもにするかぎり、個人および集団の創意や自発性や独立の活動をもにするかぎり、個人および集団の創意や自発性や独立の活動をもにするかぎり、個人および集団の創意や自発性や独立の活動をもにできる。……あらゆる利害、あらゆる観念の間の真実の関係がができる。……あらゆる利害、あらゆる観念の間の真実の関係がができる。……あらゆる利害、あらゆる観念の間の真実の関係ができる。……あらゆる利害、あらゆる観念の間の真実の関係ができる。

ちにも存することを指摘している。

プルードンが、こうした困難を十分念頭におきながら、政治構造変革の方途として提唱するのが、いうまでなく、前回で述べた連合主義の原理であり、自治すなわち政治における、また広く社会生活における自主管理の主張である。これは、くりかえしていえば、プルードンにおいては個人および集団が本来的に具えていると見る、自発自主的な活動力を自由に発揮させることにほかならない。連合は初いでの国家または政治の役割として発意、計画を認めているけれども、その実施は他の集団に委ねるべきことを主張している。これは、プルードンの自治および自主管理の考えからすれば当然でこれは、プルードンの自治および自主管理の考えからすれば当然でこれは、プルードンの自治および自主管理の考えからすれば当然でこれは、プルードンの自治および自主管理の考えからすれば当然でこれは、プルードンの自治および自主管理の考えからすれば当然でる。そしてこの考えは、国家から可能なかぎり自主独立して公共機る。そしてこの考えは、国家から可能なかぎり自主独立して公共機る。そしてこの考えは、国家から可能なかどり、また評議会運動に通ざるものである。

いが、その特質をなす「大衆路線」、すなわち自発的積極的な大衆と民衆の自発的、自然発生的活動の表われであるが、これの意義をと民衆の自発的、自然発生的活動の表われであるが、これの意義をと民衆の自発的、自然発生的活動の表われであるとはまちがいないであることは、すでに事実の示すところであり、この過誤をくりかえさないための方策については、プルードンのなかに少くとも示唆するもいための方策については、プルードンのなかに少くとも示唆するもいための方策については、プルードンのなかに少くとも示唆するもいための方策については、プルードンのなかに少くとも示唆するもいための方策については、プルードンのなかに少くとも示唆するもいが、その特質をなす「大衆路線」、すなわち自発的積極的な大衆のが少くないであるう。中国革命について私には語るとはまちがいないが、その特質をなす「大衆路線」、すなわち自発的積極的な大衆のが少くないであるう。中国革命について私にように、もともいが、その特質をなす「大衆路線」、すなわち自発的積極的な大衆のが少くないである。

参加、大衆のうちにひそむ創意、エネルギーの引出しという方針を加、大衆のうちにひそむ創意、エネルギーの引出しという方になるが、プルードンの思想が直接影響したいくつかの歴史的事実はある。 毛沢東におけるアナ

際にどう実現され、少くともどのように企図されたかであろう。とれはみな知られていることで、あらためてとりあげるまでもないであろうが、かんたんにふれることにしたい。まず、パリ・コミンであるが、その活動分子は労働者以外種々の階層をふくみ、多数派をなしたのはブランキ派、ジャコバン派であったが、大衆をとらえたのはむしろプルードンの思想であり、中央委員に選ばれた労働者二五名中一三名は、第一インタナショナル加入のプルードン労働者二五名中一三名は、第一インタナショナル加入のプルードン芸者であった。そして「コミューンの綱領」といわれる、一八七主義者であった。そして「コミューンの綱領」といわれる、一八七主義者であった。そして「コミューンの綱領」といわれる、一八七主義者であった。そして「コミューンの綱領」といわれる、一八七主義者であった。といてある。

関係に発展したものであり、その目標はもともと決して国家権力のンのほか、一時期親交のあったゲルツェンおよびその他の人々をつうじてナロードニキや社会革命党のなかにかなりおよんでおり、これがソヴィエト形成の下地をなしたという。オスカー・アンヴァイラーはその『一九〇五年の最初のソヴィエトから十月革命後のボルシェヴィキ的国家機関への直接的発展」なるソヴィエトセ家の説をシェヴィキ的国家機関への直接的発展」なるソヴィエトは、長い間に否認し、「一九〇五年および一九一七年のソヴィエトは、長い間に否認し、「一九〇五年および一九一七年のソヴィエトは、長い間にわたってボルシェヴィキ党およびその「標はもともと決して国家権力のわたってボルシェヴィキ党およびその目標はもともと決して国家権力の力になって、一九〇五年および一九一七年のソヴィエトは、長い間において、アルードンの影響は、バクーニーつぎにロシアについてであるが、プルードンの影響は、バクーニーの話にロシアについてであるが、プルードンの影響は、バクーニーの話に対して国家権力の対象が、アルードンの影響は、バクーニーの話により、アルマルードンの影響は、バクーニーの話によりました。

きる」と語っている。 奪取にはなかった」こと、またこの「労働者階級の自治機関」がど のようにして共産党独裁の機関に変えられたかもしくわしく論じて がプルードンの影響のもとにつくられたとし、「私は、当時プルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで ドンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで ドンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで がプルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで がプルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで がプルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで がプルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで がプルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで がプルードンの思想が異常なほどに浸透ししていたことを証明することがで をある」と語っている。

ることは、ここでとりあげるまでもないであろう。ズム一般の本質であり、スペイン革命のなかにその見事な実例のあ自主管理は、いうまでもなくアナキズム、アナルコ・サンジカリ

現代、自主管理をいうと、ユーゴスラヴィアとアルジェリアの例現代、自主管理に対するプルードンの影響または思想的関連を語っているけれども、的確な事実は知ることができない。ここではコミュンによる自治制も探用され、自主管理の成果をあげているかに伝ュンによる自治制も探用され、自主管理の成果をあげているかに伝ったよる自治制も探用され、自主管理の成果をあげているかに伝った。解放後アルジェリアでも、白人の所有者から没収した土地である。解放後アルジェリアでも、白人の所有者から没収した土地である。解放後アルジェリアでも、白人の所有者から没収した土地である。解放後アルジェリアでも、白人の所有者から没収した土地である。

変化をもたらした。キブツを生んだ思想的源泉は複雑をきわめていと古く、六十余年の歴史もっている。しかし建国はキブツに種々のなものがある。成立の事情も他と異なり、イスラエル建国よりずっなものがある。成立の事情も他と異なり、イスラエル建国よりずっなものがある。成立の事情を他と異なり、イスラエルのキブツも同様のもう一つ、自主管理の実例である、イスラエルのキブツも同様の

る。ジャン・セルヴィエはその『ユートピアの歴史』でプルードン主義の影響を述べているが、その事情は明らかにしていない。ハン主義の影響を述べているが、その事情は明らかにしていない。ハン主義の影響を述べているが、その思想を受けついだブーバーがキブツ運動に直接かかわりをもったことは明らかであるが、その思想は運動にあまりとりいれられていないようである。最初のキブツがナロードニキとよりいれられていないようである。最初のキブツがナロードニキは、プルードンの考えが間接的にはおよんだものといえるかも知れば、プルードンの考えが間接的にはおよんだものといえるからすれば、プルードンの考えが間接的にはおよんだものといえるから知れば、プルードンの考えが間接的にはおよんだものといえるから知れば、プルードンの考えが間接的にはおよんだものといえるから知れば、プルードンの書にたいる。これは多分に内外の政治的理由によるものと思われる。というのは、キブツの性格、構造をマルクス主義に結びつけると思われる。というのは、キブツの性格、構造をマルクス主義に結びつけると思われる。というのは、キブツの性格、構造をマルクス主義に結びつけると思われる。というのは、キブツの性格、構造をマルクス主義においるの影響を表しいた。

わき道へそれたが、ここで問題の自主管理が最高度に行われているのは、キブツにおいてであろう。いうまでもなく、今日キブツは、るのは、キブツにおいてであろう。いうまでもなく、今日キブツは、るのは、キブツにおいてであろう。いうまでもなく、今日キブツは、のほか、共同生活の自治、自主教育等において、おそらく他にその類がないであろう。フランスのいわゆる「五月革命」のさい、自主管理がその標語になったことは記憶に新しいが、その折開かれた、自主管理に関する座談会で、親しく見聞したという出席者セルショナスも、キブツにおける自主管理をもっとも申し分のない例として述べている。(Autogestion, N°7, 1968)。

とである。全面的自主管理の思想はそのもっとも重要 な 一つ で あ革についての考え方において、汲みとるべき重要な源泉が存するこゆるマルクス・レーニン主義といちじるしく異なる、社会とその変感想をつけ加えると、プルードンには、マルクスと、少くともいわ感想をつけ加えると、プルードンの思想はもともと要約しがたく、以複雑多岐にわたるプルードンの思想はもともと要約しがたく、以

であることはいうまでもない。り、体制そのものの変革の下地となるべき体制内改革の原理 であるためには、可能な限りの権力および社会機能の分散化が不可欠あるためには、可能な限りの権力および社会機能の分散化が不可欠のあることはいうまでもない。

アテンション・プリーズ…… 前号でライヒの『ファシズムの大衆心理』(下)(せりか書房 一九七〇年一月三理』(下)(せりか書房 一九七〇年一月三十一日発行)の誤植のひどさについて書いたところ、E氏から、誤植も問題だけれたところ、E氏から、誤植も問題だけれたところ、E氏から、誤植も問題だけれて。

らず、「ぼくは人のあら探しは嫌いです」とで、かつて林達夫氏がブリュンテールの『フランス文学提要』の翻訳の流いてみたらどうだと煽動してみたあばいてみたらどうだと煽動してみために日書をあばいてみたらどうだと煽動してみために日書をが、賢明にして謙譲なE氏がブリュンテールの『フランス文学提要』の翻訳のよりを徹底的に追求している。

それでも参考までにととくに誤りのひ それでも参考までにととくに誤りのひ どい 部 分(同書上巻七一一ペーシ)につ いて、レポート用紙で一一枚に及ぶリス いて、レポート用紙で一一枚に及ぶリス トを送ってくれた。ざんねんながらその 丹念な報告を全文掲載する余地がないか ら、ライヒを読む上で決定的に重要な個 所を二つあげるにとどめる。

錯層である。(傍線は誤訳) 錯層である。(傍線は誤訳) 錯層である。(傍線は誤訳)

はがされたとき現われるのは自然な社改訳 しかしながら、いかにもよくしつ

☆八ページ七~五行(後ょり)
性格層である。(傍線は正訳)

ま制止する。(傍線は誤訳) 転し、その結果いかなる自然な行動を 転し、その結果いかなる自然な行動を では起源をもつ性格を、倒錯衝動に逆

は社会的な性質のものだった自然な衝動を倒錯した(二次)衝動に変えてしまう、そしてこれによって(この歪曲は)生がそのままの形で現われるのをは、生がそのままの形で現われるのをいっさい制止する。(傍線は正訳)

は翻訳であろうか。
(パーサー)
のが翻訳だ」とは某氏の名言である。ぼ
のが翻訳だ」とは某氏の名言である。ぼ